



世田谷文学館友の会 おしらせ 第168号

2024年2月1日
世田谷文学館友の会
〒157-0062
世田谷区南鳥山1-10-10
世田谷文学館内
FAX 03-5374-9120
ホームページ
<https://setabuntomo.net/>

2024年4月13日（土） 総会及び記念講演開催

世田谷文学館友の会は、来る4月13日、総会及び世田谷文学館と共催の記念講演を開催いたします。

日時・場所： 4月13日（土） 於 世田谷文学館 1F 文学サロン

総会 午後1時～1時40分 **記念講演** 午後2時～4時

総会： 友の会2023年度会員は参加ください。（友の会会員以外の方は参加できません。）

講演申込： 友の会2023年度会員、世田谷文学館「セタブンパス」会員、一般の方より申込みを受付けます。「往復はがき」に、①イベント「記念講演」②開催日「4月13日」③2023年度会員番号（会員番号の前に「友の会」あるいは「セタブンパス」と明記）、両会員以外の方は「非会員」と記載 ④住所・氏名・電話番号を記入して投函ください。締切は**3月18日（月）必着**です。（Web申込みは行いません。）

定員150名にたいして申込み多数の場合は抽選となります。（友の会会員優先）

参加費： 友の会2023年度会員は総会・記念講演とも無料、「友の会2023年度会員証」提示要。セタブンパス会員は記念講演無料、「セタブンパス会員証」提示要。一般の方は記念講演参加費**500円**を当日受付にてお支払いください。

【世田谷文学館・世田谷文学館友の会共催 記念講演】

～ 作家・平野啓一郎氏 「三島由紀夫と大江健三郎」 ～

講演者メッセージ — 後続の、大いに影響を受けた人間からすると、三島由紀夫と大江健三郎とは、最終的には厳しく対立した、文学史的な兄弟のように見えます。

確かに、この二人の作風は甚だ異なっており、天皇制の評価、戦後民主主義の評価といった政治思想に於いても正反対でした。日本とは何か、という問いへのアプローチとその回答もまったく異なっています。しかし、彼らが正に拘ったその問題は、共通していたとも言え、だからこそ、この二つの固有名詞を並べて論じることには、違和感がないどころか、積極的な意味が見出されるでしょう。

三島は、大江健三郎の登場の衝撃を正面から受け止め、高く評価しており、逆に大江は、三島由紀夫の死の衝撃を、極めて否定的ながら後年の『さようなら、私の本よ！』（講談社 2005年）に至るまで思索し続けています。

若き日の彼らを見舞った共通の危機は、言うまでもなく第二次世界大戦であり、それを神格化された天皇の名の下で経験し、敗戦を迎えました。しかし、彼らがいた場所は、東京と四国の森であり、その十歳の年齢差は決定的な違いでした。

戦後社会に蔓延したニヒリズムの克服は、当時の作家たちにとって、大きな課題であり、彼らとて例外ではありません。

三島と大江は、どのようにして「生きよう」とし、またどのように「死」を捉えていたのでしょうか？

二人の生と作品の軌跡を比較しつつ、更にそこに外地の奉天で終戦を迎えた安部公房、長崎で被爆した林京子といった作家たちの生と作品の参照を加え、立体的な議論を目指したいと思います。

〔平野啓一郎氏ご紹介〕

1975年、愛知県蒲郡市に生まれ北九州で育つ。京都大学法学部卒。1999年、大学在学中に文芸誌「新潮」に投稿した『日蝕』により第120回芥川賞を受賞。以後、多彩なスタイルで数々の作品を発表し、受賞（章）歴を挙げても、『決壊』2009年芸術選奨文部大臣新人賞、『ドーン』2009年Bunkamura ドウマゴ文学賞、2014年フランス芸術文化勲章シュヴァリエ、『マチネの終わりに』2017年渡辺淳一文学賞、『ある男』2018年読売文学賞、『三島由紀夫論』2023年小林秀雄賞、等々がある。作品は各国で翻訳されているが、『マチネの終わりに』『ある男』など映画化も話題を呼んだ。本年は最新長篇小説『本心』の映画公開が待たれる。2020年から芥川賞選考委員を務めている。

◇◇◇ 友の会 発展的解消に向けて ◇◇◇

昨年11月7日に全会員（2023年度会員421名）の皆さまに文書「友の会 発展的解消のおしらせ」でお知らせいたしました通り、「世田谷文学館友の会」は2024年4月13日をもって活動を休止し、発展的解消を期して文学館に協力していくこととなります。当面の措置として皆さまにお伺いしました「セタブンパス」無料体験希望の有無のご回答は296名（会員の70%）からいただきました。うち体験希望者は6割です。また「発展的解消」に対するご意見としては、これまでの運営・活動に対する感謝、労い、今後への期待が過半数でした。驚きや戸惑いのお声もございましたが、直接の反対意見表明はありませんでした。ご質問や追加のご説明を必要とされる方には、逐一、平尾会長からメール、電話、お手紙を差し上げたほか、ボランティア活動などでお会いできた方々には、直接ご説明しました。皆さまのご理解とご協力に改めて感謝いたします。なお、4月13日の総会におきましては、改めて、友の会活動休止の意義、結論に至った経緯、会員からの回答結果、今後の対応などについて説明させていただきます。

ところで、「世田谷文学館友の会」は1999年に発足して以来本年で25周年を迎えます。友の会は活動休止となりますが、これまでの活動を支えていただいた会員の皆さまならびに文学館への感謝の気持ちを込めて、「世田谷文学館友の会25周年記念」のクリアホルダーを贈呈いたします。デザインは、世田谷文学館亀山館長にお選びいただきましたロシア文人たち10名の箴言のロシア語原文と翻訳文で構成されています。一部ずつ同封しましたので、お納めください。

さらに、「セタブンパス」の無料体験希望の有無にかかわらず、4月27日（土）から始まる世田谷文学館「伊藤潤二展」の鑑賞チケット引換券一枚、並びに文学館2024年度年間イベントスケジュール表を同封しました。オンライン情報を得られない方々も文学館の年間スケジュール表をご覧ください、イベント参加のご予定を立てていただけましたら幸いです。

四半世紀にわたる友の会の活動の積み重ねを最大限生かすべく、また全世代が親しめる文化・文学活動を目指すことを文学館にお願いし続けてまいりたいと思います。

【ご連絡】

4月14日以降のお問合せは、文学館の電話番号（03-5374-9111）あるいはホームページ「世田谷文学館」>「お問合せ」ページへご連絡ください。

俳句鑑賞会

2月27日（火）、3月12日（火） 午前10時半～正午

文学館2階講義室 参加費 200円 秀句一句とご自作があれば一句お持ちください。

※4月以降は、同好会「俳句鑑賞会」として引き続き活動を続けます。ご参加を希望される方は代表者・中出清治（03-3991-7425）までご連絡ください。

<催事参加申込み方法>

★【総会記念講演のお申込み】は、「往復はがき」に下記の事項を記入してお送りください。

（本申込みに関しては、インターネットでの申込みは行いません。）

① 講演名 ② 開催日 ③ 2023年度会員番号（会員番号の前に「友の会」あるいは「セタブンパス」と明記）、
両会員以外の方は「非会員」と記載 ④ 住所・氏名（ふりがな）・電話番号。

連名申込み可（③と④を必ずご記入ください。また返信用はがきの宛名にも連名者氏名をお忘れなく）。

一般参加者は参加費を当日お支払いください。

宛先 〒157-0062 世田谷区南烏山1-10-10 世田谷文学館内 「世田谷文学館友の会」 FAX 03-5374-9120

ホームページ 「世田谷文学館友の会」> <https://www.setabuntomo.net/>

お問い合わせは友の会専用携帯：080-1154-1562 へ。毎週火曜日10時から17時、友の会スタッフ在館。